

# 教育制度論

## 第1テーマ ガイダンス

## はじめに

- 進級おめでとうございます。
- 高等教育の質を保ちつつ、学生へ過度の負担を与えないよう授業を提供できればと考えています。  
(「楽な授業」という意味ではありません)

# 担当教員について

- 中村裕(保育科所属) 3904研究室

主な担当科目：

教育原理

教育制度論

日本国憲法

# 担当教員について

- ・中村裕(保育科所属) 3904研究室

連絡先(主に授業の内容に対する質問):

[yutakan@wa.seitoku.ac.jp](mailto:yutakan@wa.seitoku.ac.jp)

※Moodleのシステムについては総合メディア室、  
履修関係については教育支援課へお尋ねください  
(教員ではお答えできません)。

# 授業の履修について

- 「教育制度論」は、幼稚園教諭免許取得のための必修科目です。
- 幼稚園教諭免許を取得しない場合は、履修する必要はありません。
- 『履修要項』(教育課程)をご確認ください。
- 履修については教育支援課へ質問して下さい。

# 授業の履修について

- ・「教育制度論」は、幼稚園教諭免許取得のための必修科目です。

- ・幼稚園教諭免許を取得しない場合は、履修する必要はありません。

→つまり、これは「児童福祉」ではなく「幼児教育」について扱う科目ということになります。

## 授業への登録について

- ・現在、Moodleのコースでは「手動登録」(学生による登録)を設定しています(2023.4.7現在)。
- ・登録しなければMoodle受講時に出席(投票)できません。速やかに登録をお願いします。

## いよいよ本題に……

- ・レジュメと、補足・解説(このファイル)を合わせて読み進めてください。
- ・以下では常体で述べていきます。

# 第1テーマ ガイダンス



# 第1テーマ ガイダンス



「ガイダンス」であるので、レジユメを一覧しておよその内容を理解できれば、成績評価という意味では以下を熟読する必要はない。（復習の意味はある）

# 第1テーマ ガイダンス



ただし、Ⅲ，Ⅳにおける成績評価の方法や留意事項、出席判定については、各自よく理解する必要がある。

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (1) 授業目標

「教育制度論」は授業を通じて学生が以下の知識を身に付け、理解し考えられるようになることを授業の目標とする。

すなわち……

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (1) 授業目標

1) 教育制度の基礎原理

2) 教育制度の歴史的変遷、教育制度に関する  
基礎的な理論

3) 現代日本の教育制度の特徴

4) 教育制度に関する基礎用語、知識および概念

5) 教育制度と幼児教育および児童福祉の関わり

↑ これを知り、理解し、考えられることを求める。

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (1) 授業目標

すなわち、「教育制度論」とは、端的に

「教育制度の基礎理論と歴史、原則」  
を学ぶ科目である。

## 0 「教育制度論の位置付け」

### 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

#### (1) 授業目標

すなわち、「教育制度論」とは、端的に

「教育制度の基礎理論と歴史、原則」  
を学ぶ科目である。

より具体的には、「教育原理」で学んだ  
教育制度に関する内容を深めていく。

## 0 「教育制度論の位置付け」

### 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

#### (2) 学習成果

次に、「**教育制度の基礎理論と歴史、原則**」を学ぶことで達成できる成果である。

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

主たる成果は、

1) 教育制度の基礎原理および知識等の修得  
他の教育係る科目の学びの深化

になる。

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

すなわち、「教育制度論」を修めることで、  
これまで教育に関する理論系科目で学んできた内容を、より深めていくことができる。

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

たとえば、もともと幼児教育・保育が、私的な営み  
＝「母親が家庭で行う営み」であったと仮定する。

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

たとえば、もともと幼児教育・保育が、私的な営み  
＝「母親が家庭で行う営み」であったと仮定する。

それが、幼稚園＝「学校」というシステムに  
組み込まれていくことになった理由は何か？

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

たとえば、もともと幼児教育・保育が、私的な営み  
＝「母親が家庭で行う営み」であったと仮定する。

同じく、保育所＝「システム化された保育」が  
必要になっていった理由は何か？

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

人類史の中で、幼稚園や保育所が必要とされた何かしらの理由……これは、当然今の日本にも当てはまる。

誤解を恐れず単純化すれば、この「何かしらの理由」とは、幼稚園・保育所、保育者の存在意義となる。

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

「保育者の存在意義」を知らない、果たそうとしないのであれば、おそらくその人は保育者にはなれない。

たまたま「なれてしまった」としても、長続きしない。

## 0 「教育制度論の位置付け」

### 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

#### (2) 学習成果

……という大げさではあるが、「保育者の存在意義」について、学生は他の授業や実習で学んできた。

ほとんどの学生が、「保育者って何をする人？」と問われたら自分なりに言語化できると考える。

## 0 「教育制度論の位置付け」

### 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

#### (2) 学習成果

というように、他の授業などで断片的に学んできた以下の事項について、教育（制度）の側面からまとめ直すことが「教育制度論」の目標となる。

- ①教育（保育）がシステム化されたのはなぜか？
- ②そのシステムのはたらきはどのようなものか？

そして、そのシステムに関わる保育者とは何者か？

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

平たく言えば、順調なら遠からず保育者になる(方が多い)であろう保育科生が、今、この時点で、「保育者としての立ち位置」を見つめ直す基礎知識を学んでいく。

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

「教育制度の基礎理論、歴史、原則」を学ぶことで達成できる成果の二つ目は、

2) 思考・理解力、俯瞰的視野、一般・専門知識・関連諸領域の知識の統合調整力の獲得である。

(わかりにくい言葉は辞書を引く)

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

これは、端的に「広い視野」「自分の持つ知識を調整する力」である。

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

カリキュラムマップを見れば明らかなおとおり、  
保育科で学ぶ科目は数が多くその範囲も広い。

「学びっぱなし」、「試験が終わればすべて忘れる」  
では、時間や労力を費やした意味に乏しくなる。

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

カリキュラムマップを見れば明らかなおとおり、  
保育科で学ぶ科目は数が多くその範囲も広い。

「学びっぱなし」、「試験が終わればすべて忘れる」  
では、時間や労力を費やした意味に乏しくなる。

すべての科目の積み重ねが、保育者としての力  
になるからである。

## 0 「教育制度論の位置付け」

### 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

#### (2) 学習成果

とはいえ、約70の科目のすべてを記憶しておく、ということもまた不可能である。

すなわち、多くの科目で学んだ内容のうち、「保育者として本当に必要な知識技術」を身に付け、実際の保育に活かすことが重要となる。

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## (2) 学習成果

察しの良い方はすでに分かったと推察するが、

「教育制度論」は、これまで学んできた事項で、  
「保育者として本当に必要な知識技術」は何か、  
「自分が保育者として何を学ぶ必要があるか」を  
知る道標となる。

## 0 「教育制度論の位置付け」

### 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

#### (2) 学習成果

「学習成果」については以上である。

端的に、「教育制度論」の学びは：

- ・単独では実際の保育へ直接つながらない。
- ・これまで学んできた(幼児)教育の知見を整理する意味がある。
- ・これは、保育者としての幅を広くする。

## 0 「教育制度論の位置付け」

### 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

#### 【補足】

目の前の保育実践、身近な保育技術はおそらく学生にとって魅力的である。

しかし、学生のうちにそれにとらわれてしまうと、保育者としての視野を狭めてしまう。

視野を広めるにはやはり知識と思考が必要である。

# 0 「教育制度論の位置付け」

# 1 「教育制度論」の授業目標と学習の成果

## 【補足】

目の前の保育実践、身近な保育技術はおそらく学生にとって魅力的である。

しかし、学生のうちにそれにとらわれてしまうと、保育者としての視野を狭めてしまう。

視野を広めるにはやはり知識と思考が必要である。

**20歳の時点で保育者としての限界を固定しないで！**

ということである。

# I 保育者に求められる資質能力について

# I 保育者に求められる資質能力について

☆まず、保育科生が必ず憶えていなければならぬ言葉に「**保育者**」がある。

# I 保育者に求められる資質能力について

問 「保育者」とは何か、簡潔に説明せよ。

# I 保育者に求められる資質能力について

問 「保育者」とは何か、簡潔に説明せよ。

解答：

狭い意味では、  
「乳幼児、児童の保育に職業として直接関わって  
いる者」である。

具体的には、幼稚園教諭、保育士、保育教諭  
などの総称である。

# I 保育者に求められる資質能力について

問 「保育者」とは何か、簡潔に説明せよ。

解答：

狭い意味では、  
「乳幼児、児童の保育に職業として直接関わって  
いる者」である。

具体的には、幼稚園教諭、保育士、保育教諭  
などの総称である。

そして、保育者とは、「**専門職**」である。

# I 保育者に求められる資質能力について

☆まず、保育科生が必ず憶えていなければならぬ言葉に「**保育者**」がある。

これは、狭い意味では、「乳幼児、児童の保育に職業として直接関わっている者」である。

具体的には、幼稚園教諭、保育士、保育教諭などの総称である。これは、「**専門職**」である。

# I 保育者に求められる資質能力について

☆すなわち、保育者とは、専門的な能力と資格を持つ、医師、看護師、弁護士、パイロットなどと同様の**専門的職業(人)**である。

# I 保育者に求められる資質能力について

☆すなわち、保育者とは、専門的な能力と資格を持つ、医師、看護師、弁護士、パイロットなどと同様の**専門的職業(人)**である。

=幼稚園教諭、保育士などは、  
「一般人とは異なる資格と能力を持つ専門職」  
である。

# I 保育者に求められる資質能力について

☆ 幼稚園教諭、保育士などは、  
「一般人とは異なる資格と能力を持つ専門職」  
である。

これは「教育原理」第1テーマなどでも強調した。

# I 保育者に求められる資質能力について

☆幼稚園教諭、保育士などは、  
「一般人とは異なる資格と能力を持つ専門職」  
である。

しかし、一般に、  
「幼稚園の先生って子どもと遊んでいれば  
いいんじゃないの？（楽な職業だね！）」  
「保育士って子ども好きなら誰でもなれるでしょ？」  
と考える人、言う人は存在する。



# I 保育者に求められる資質能力について

☆幼稚園教諭、保育士などは、  
「一般人とは異なる資格と能力を持つ専門職」  
である。

しかし、一般に、  
「幼稚園の先生って子どもと遊んでいけば  
いいんじゃないの？（楽な職業だね！）」  
「保育士って子ども好きなら誰でもなれるでしょ？」



今の学生は、「絶対に違う」と言い切れるのではないか。

# I 保育者に求められる資質能力について

☆幼稚園教諭、保育士などは、  
「一般人とは異なる資格と能力を持つ専門職」  
である。

そもそも、保育科を受験する高校生ですら、  
入試面接で次のように話す。

# I 保育者に求められる資質能力について

☆幼稚園教諭、保育士などは、  
「一般人とは異なる資格と能力を持つ専門職」  
である。

そもそも、保育科を受験する高校生ですら、  
入試面接で次のように話す。

「子どもが好きだから」

「子どもと遊ぶのが得意だから」

「子どもと一緒に働きたいから」

# I 保育者に求められる資質能力について

☆幼稚園教諭、保育士などは、  
「一般人とは異なる資格と能力を持つ専門職」  
である。

そもそも、保育科を受験する高校生ですら、  
入試面接で次のように話す。

「子どもが好きだから」

「子どもと遊ぶのが得意だから」

「子どもと一緒に働きたいから」

保育者になりたい！

# I 保育者に求められる資質能力について

☆幼稚園教諭、保育士などは、  
「一般人とは異なる資格と能力を持つ専門職」  
である。

この一年間きちんと学んできたならば、「それだけでは保育者にはなれないよ」と言えるのではないか。

「子どもが好きだから」

「子どもと遊ぶのが得意だから」

「子どもと一緒に働きたいから」

保育者になりたい！

# I 保育者に求められる資質能力について

☆幼稚園教諭、保育士などは、  
「一般人とは異なる資格と能力を持つ専門職」  
である。

逆説的には、そのように言えるのなら学生が学んできたこの1年余に明確、確実な意味があったと考えてよい。

「子どもが好きだから」

「子どもと遊ぶのが得意だから」

「子どもと一緒に働きたいから」

これだけじゃ  
足りないよ！

# I 保育者に求められる資質能力について

☆幼稚園教諭、保育士などは、  
「一般人とは異なる資格と能力を持つ専門職」  
である。

では……

# I 保育者に求められる資質能力について

☆「幼児教育・保育の専門的能力」とは何か？

# I 保育者に求められる資質能力について

☆「幼児教育・保育の専門的能力」とは何か？

少し考える際の手がかりを与えると、

「関わる子どもの数」

「子どもと関わる年数」

「教育の内容」

「教育の計画」

について、「保育者」と「保護者」の違いは何か。

# I 保育者に求められる資質能力について

☆「幼児教育・保育の専門的能力」とは何か？

より具体的には、「教育の内容」「教育の計画」について、(一般の保護者が持たず)保育者が持つ専門的な知識・技術は何か。

# I 保育者に求められる資質能力について

## ☆「幼児教育・保育の専門的能力」とは何か？

より具体的には、「教育の内容」「教育の計画」について、(一般の保護者が持たず)保育者が持つ専門的な知識・技術は何か。

「ああ、アレね……」と発想できるなら、おそらくそれが正解である。

# I 保育者に求められる資質能力について

☆なお、レジュメ1頁の最後の「 」内には、「**認定こども園**」と入る。

幼稚園、保育所、認定こども園それぞれの存在理由も考えてみてほしい。

これらは一般的に「似たような施設」と認識されているかもしれない。これらの施設が三種類も併存している理由は何か。

## Ⅱ 本科目と他の授業および保育者養成の関係について

## Ⅱ 本科目と他の授業および保育者養成の関係について

冒頭で述べた通り、

- ・「教育制度論」は、幼稚園教諭免許取得のための必修科目である。

- ・幼稚園教諭免許を取得しない場合は、履修する必要はない科目である。

→本科目は、「児童福祉」ではなく「(幼児)教育」について扱う。

## Ⅱ 本科目と他の授業および保育者養成の関係について

- ・細かいことを述べると、教員免許取得のためには、

「教育の基礎理論に関する科目」→

「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」

に関する科目を履修しなければならない。



この授業としてはこれは憶える必要はない。

## Ⅱ 本科目と他の授業および保育者養成の関係について

☆「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関する科目

- ・「教育制度論」はまさにこれへ該当する。
- ・他大学では、「教育行政論」、「教育経営学」、「教育社会学」といった授業に代替され得る。
- ・名称的にいかにもアレだが、必要な科目である。

## Ⅱ 本科目と他の授業および保育者養成の関係について

- ・もともと、現状の保育者養成において、ほとんどの学生が幼稚園教諭免許・保育士資格の両方を取得する(しなければならない)。
- ・したがって、「教育制度論」でも必要に応じて「児童福祉」へ言及する。
- ・とはいえ、あくまで中心は「(幼児)教育」である。

### Ⅲ 半期の授業スケジュール、授業の進め方、成績評価の方法などについて

### Ⅲ 半期の授業スケジュール、授業の進め方、成績評価の方法などについて

- 基本的に書いてあるとおりである。
- 保育科の二年生はよく認識していると考ええる。

## 2 授業の構成(各回の授業テーマ)

- レジユメの通りである。
- 基本的に順番通りに進めてく。

## 2 授業の構成(各回の授業テーマ)

- ・レジュメの通りである。
- ・「この回ではこれについて学びたい」といった希望があれば、可能な範囲で対応する。

### 3 授業の評価

- ・レジユメの通りである。

## 4 留意事項

- ・レジュメの通りである。

※担当教員は、「学生の学ぶ意思、学ぶ権利」を最優先に考えている。

したがって、授業中の私語等については厳しく対応する。(スマホ、居眠りを含む)

### Ⅲ 半期の授業スケジュール、授業の進め方、成績評価の方法などについて

**※成績評価の基準……学生便覧の通り**

## ※成績評価の基準……学生便覧の通り

端的には、

- S判定…総得点の100～90%
- A判定…総得点の89～80%
- B判定…総得点の79～70%
- C判定…総得点の69～60%
- D判定…総得点の59%以下 不合格

## ※成績評価の基準……学生便覧の通り

端的には、

- ・S判定…総得点の100～90%
- ・A判定…総得点の89～80%
- ・B判定…総得点の79～70%
- ・C判定…総得点の69～60%
- ・D判定…総得点の59%以下

大学の授業であり、特に子どもの命や幸福に関わる科目のため成績評価は厳格に行う。

不合格

## ※成績評価の基準……学生便覧の通り

端的には、

- ・S判定…総得点の100～90%
- ・A判定…総得点の89～80%
- ・B判定…総得点の79～70%
- ・C判定…総得点の69～60%
- ・D判定…総得点の59%以下

客観的に  
達成度が低ければ  
D評価になる。

不合格＝再履修

不合格



## ※成績評価の基準……学生便覧の通り

端的には、

- ・S判定…総得点の100～90%
- ・A判定…総得点の89～80%
- ・B判定…総得点の79～70%
- ・C判定…総得点の69～60%
- ・D判定…総得点の59%以下

不合格

ただ、本学の学生は  
努力家が多いので、  
最終的にはS,A評価  
が多くなる。



## ※成績評価の基準……学生便覧の通り

端的には、

- ・S判定…総得点の100～90%
- ・A判定…総得点の89～80%
- ・B判定…総得点の79～70%
- ・C判定…総得点の69～60%
- ・D判定…総得点の59%以下 **不合格**

一年次の某授業も  
全体として相当の  
到達度であった!?



## まとめ

- ☆「教育制度論」は典型的な理論系科目である。  
「保育の現場」との直接的な関わりは見えにくいかもしれない(本当は関わっている)。
- ☆教育系科目の核となり得る科目である。
- ☆「保育者」としての芯を作る、幅を広げる意味で非常に重要な科目である。
- ☆小さな努力の積み重ねが1年後の皆さんを作る。

## 【重要】 試験受験資格について

※授業出席回数が基準を下回る場合、失格となる。

- 卒業年次生であっても、この判定は厳格に行う。

# おわりに

- ・なかなか先が見えないからこそ、「なすべきをなす」ことが求められると考えています。

